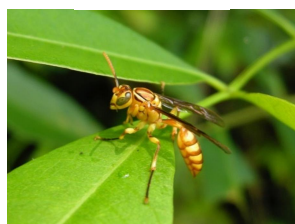


つながり

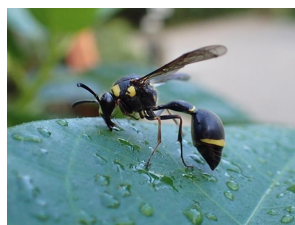
1. 細腰亜目

はなじみのない用語ですが、昆虫の分類でハチの仲間を膜翅目と呼びます。ハチは2グループに分けられ、原始的なハチ類を広腰亜目(ひろこしあもく)、もう一つを細腰(ほそこし)亜目と呼びます。名前の通り、胸と腹の間の太さに差があるのです。

細腰亜目



ホソアシナガバチ



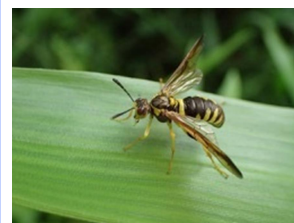
トックリバチ

アシナガバチ類を見ると細腰が実感できます。本来は産卵管である針は、細腰亜目のハチの大部分が産卵に使用せず、毒の注入針として用います。スズメバチのような社会性バチは防衛のために、ジガバチのような狩バチは餌の麻酔のためにそれぞれ使用します。素早く的確な位置に針を打ち込むためには、自在に動かすことのできる細い腰が必要なのです。

細い腰を持つことは、生きる上で有益であったのですが代償もありました。胸部から腹部への消化管が細くなったのです。生存に必要なタンパク質すなわち肉が通らなくなりました。液体しか通らないのです。そこで長く生きる必要のあるスズメバチやアシナガバチは幼虫に肉を与え、幼虫から栄養液として戻してもらいます。

動物の死体を見ることは少ないですが、昆虫は肉が少なく食べられることが少ないため、案外転がっています。手を出しにくいハチ類ですが、死骸を拾ってみてください。アシナガバチは8月に、スズメバチは11～12月に巣が終わり、働きバチは死んでいきます。

広腰亜目



ヨウロウヒラクチハバチ

2. 葉脈と葉痕

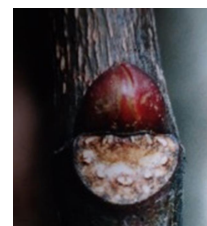
落葉樹は秋に枝と葉が離れてしまいます。この時にこの2つの接続を観察してみましょう。

葉脈は水を運ぶ道管と同化産物が移動する師管のある部分です。さらに枝・幹の通路とつながっています。落葉はこのつながりを覗ける機会です。枝・幹の管は、葉が落ちたとき水などが漏れないように栓をする必要があります。葉が付いていた痕(葉痕)にはこのコルクの栓が見える形で残されています。

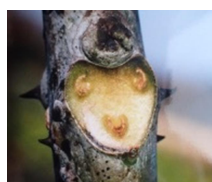
葉脈中の道管は根からつながっているのですが、葉柄では1本のパイプではなく、束になったものがさらにまとまっていることがわかります。羽状複葉のタラノキでは、葉柄は幹周りの約2/3とつながっており、30以上の束(維管束)が葉柄に入っていることがわかります。ゴンズイでは10、またカラスザンショウやオニグルミでは20以上が3ブロックに分かれています。ケヤキのような単葉でも3ブロックに分かれたものが、葉脈につながっています。どのような集合が多いのか、冬枯れの仕事になります。葉痕の形状は樹種によって決まっていますから同定にも使えます。



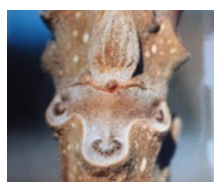
タラノキ



ゴンズイ



カラスザンショウ



オニグルミ



ケヤキ

(倉吉博物館専門委員 國本洗紀 2025)